

平成 31 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和 2 年 4 月 27 日現在

研究課題名	ロシア市場経済移行後の会計・経済・経営・金融語彙の変化と変容	
申請者	氏名	所属機関・職
	齊藤 久美子	和歌山大学経済学部・教授

研究成果の概要

令和元年 9 月及び令和 2 年 3 月の 2 回、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターに滞在し、同資料室資料、大学付属図書館などで資料収集、研究を行った。ロシアでは市場経済移行後、今までになかった利益計算の仕組みを構築し、更に存在しなかった概念を言語化する必要があった。報告者は従来からその研究を続けてきたが、今回は、北海道大学においてロシア語資料『財務（財政）』、『経済と生活』、その他資料を逐一、変化を追い考察するとともに、日本で出版されているロシア関係の資料を資料室で閲覧、収集することができたのは収穫であった。また、北大スラブ・ユーラシア研究センターのみで閲覧できる電子資料にもあたった。

それらの研究成果の一部が、下記の発表論文並びに学会報告である。ロシア市場経済化のなかで、今日、ロシアがアングロ・アメリカ文化の影響を受けていることは明らかである。しかしながら、それは単に言語学の問題ではなく、市場経済化のなかで、たとえば「特別利益」という概念を英語が意味するような収益と費用の差額概念を意味するのではなく、包括概念であるといったような、ロシアの特殊性にも注意しなければならない。

今、世界を席卷している新型コロナウイルスとともに、ロシア語においても再び、特に英語による影響が大きく影響していることも二回目の滞在、研究において痛感したことである。あまりにも急激な世界経済の変化であるため、滞在中は印刷物としてそれらについてのものにあたることができなかつたものの、滞在中のインターネットアクセスによる今後の自分自身の課題の視座を得ることができた。3 月末の年度末に二回目の滞在を行ったため、この成果はまだ、論文などとして発表できていない。今後の研究課題としたいと考えている。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

齊藤久美子（フルペーパー・学会報告）「ロシアにおける経済体制の変化とロシア語への影響—会計学の場合—」『北東アジア学会』第 26 回研究大会予稿集、2019 年 9 月。（同論文に基づく学会報告、2019 年 9 月 29 日）謝辞あり。

齊藤久美子（学会報告）「観光資源としてのサンゴ礁と経済」日本サンゴ礁学会第 22 回大会、2019 年 11 月。文化の言語への影響ということで、上記研究課題について触れた。貴センターへの謝辞を入れた。

他、2 回目の研究期間が 3 月 31 日までで、あったので、現在、論文等用意中。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

齊藤久美子（基盤研究（C）・2020 年度応募）「社会の変化と言語への影響-特にロシア語を中心として-」

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。